

EST 後出血の後方視的検討

1. 研究の対象

2011 年 4 月～2025 年 3 月に当院で逆行性胆管膵管造影（ERCP）による診断、治療を受けた方

2. 研究目的・方法

「EST 後出血」とは、内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST : Endoscopic Sphincterotomy）を行った後に生じる出血のことを指します。この手技は、総胆管結石の除去などの目的で、十二指腸乳頭部の括約筋を切開する処置ですが、合併症として出血が起こることがあります。

EST 後の遅発性出血の頻度は 2～10%とされ、危険因子として、抗血栓薬の使用、血液透析、慢性腎臓病、肝硬変、高齢、大きな括約筋切開、即時出血などが報告されています。治療法としては、バルーンによる圧迫、局所注射（エピネフリン等）、焼灼、クリップなどの内視鏡的止血が一般的ですが、難治の場合は一時的な胆管金属ステント留置による圧迫止血等を行う場合もあります。また、近年は自己組織化ペプチド溶液（ピュアスタート®）を止血剤として塗布することで止血が得られるという報告も散見されます。

当院における EST 後出血の現状を評価するとともに、より安全な内視鏡診療体制の構築を目指すことを目的に本研究を立案しました。研究期間は 2030 年 3 月 31 日までです。

3. 研究に用いる情報の種類

ERCP の診断結果、EST 後出血の有無、EST 後出血に対する治療方法、患者さんの年齢、性別、基礎疾患、生活歴、服薬歴、血液検査結果など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究責任者）：

川崎市立川崎病院内科 井上健太郎

住所：神奈川県川崎市川崎区新川通 12-1

電話：044-233-5521（代）

-----以上